

## Leonora Edith Lea 年譜

西暦(年号)	事 柄
1896(明治29)	3月30日 英国自治領カナダ、ノヴァスコシア州ニューグラスゴーで、アーサー・リーとメアリーの7人の子供の第1子として生まれる。
1897(明治30)	2歳 CMS 宣教師の父アーサー・リー師、豊橋に赴任、両親と共に初来日。 当時、カナダ聖公会が、愛知県、岐阜県、長野県、新潟県で宣教活動を行っていた。アーサー・リー師は一家とともに最初に豊橋、ついで名古屋、岐阜に赴任した。
1905(明治38)	9歳 賜暇休暇で一家が英国に滞在中に母親死去。
1906(明治39)	10歳 子供たちを連れて南東京に赴任する父とともに日本に戻る。
1909(明治42)	11歳 アーサー・リー師、ウェストミンスター寺院にて九州教区の主教に聖別され、一家とともに福岡に赴任。イギリスの子供たちの学校がなかったので、レオノラは父が私塾を作るのを助けた。
1912(明治45)	リー主教の子供たちは教育を受けるために英国に戻る。CMS 宣教師の子供たちのための学校、サリー州リンプスフィールドの St.Michael' School に入学。
1915(大正4)	9月 英国グロスター州の Cheltenham Ladies' College (1853年創立) に入学。フランス語・論理学・哲学などを学ぶ。在学中は St Margaret's, St Clare, Bunwell の3学寮に入った。第一次世界大戦中は、学寮の舎監助手として働いた。
1920(大正9)	12月 Cheltenham Ladies' College でロンドン大学学外学位制度による試験を受け、文学士の学位を取得。
1921(大正10)	最終年度は、College 内に設置された聖ヒルダ師範学校で学ぶ。 7月 Cheltenham Ladies' College 卒業。トロントの Havergal College で教職に就く。
1926(昭和1)	CMS の宣教師として日本での職を求めたが、ポストがなかった。
1927(昭和2)	Havergal College 退職。 4月 SPG から教育宣教師として日本に派遣され、松蔭高等女学校に着任。英語科中等教員免許状(文部省38372号)。住所は学校内の西洋館(宣教師館)。神戸市中山手通6丁目91番地(当時)
1929(昭和4)	12月 松蔭高等女学校、現校地青谷へ移転。校地内の在日本 SPG 宣教師団の外国人教師館に住む。住所は神戸市灘区青谷町3丁目、松蔭高等女学校内。
1931(昭和6)	6月 財団法人私立松蔭高等女学校の理事(会計)に選定され、宣教師会議推薦による評議員となる。
1932(昭和7)	4月6日 公暇帰国(～1933.3.18)
1937(昭和12)	4月 公暇帰国(～1938.3下旬)

西暦(年号)	事 柄
1940(昭和15)	9月13日 松蔭の第57回理事会において、基督教教育同盟校長会の申し合わせ事項として、学校長、財団法人理事長は日本人であること、理事の過半数は日本人であること、外国教会より経済の独立を期すること、学校内における宗教教育および儀式を全廃することなどが報告され、理事八代斌助が理事長となる。ミス・リーは、理事として残るが、会計主任は廃止となる。
1941(昭和16)	松蔭高等女学校退職。6月31日、学校の宣教師館を出て、神戸市生田区山本通2丁目21番地の家に住む。エビファニーの修道女がオーストラリアへ帰ったあとの家。昇天幼稚園の保母をしていた広瀬可子とお手伝い夫婦との4人で住む。戦後1966年までこの家に住む。 10月15日 理事辞任。 12月9日 ミス・リー、評議員に選定されず。
1942(昭和17)	7月31日 日英交換船に乗るために横浜へ向かう英国人の列車を見送る。カナダ生まれという理由でミス・リーは乗船できず涙を吞む。(2回目の日英交換船は実施されていない。)
1943(昭和18)	9月 2回目の日米交換船に、英国のパスポートを持っているという理由で乗船拒否される。「日本聖公会のために一緒に働きましょう」と八代斌助主教に言われる。 戦時中、自宅軟禁となり、その自宅で英国系在留人のための食糧配給所を運営する。
1945(昭和20)	6月5日 神戸空襲。旧フォス邸、聖ミカエル教会(中山手)、イングリッシュ・ミッション・スクール(旧乾行義塾閉校後のSPGスクール)が焼失。ミス・リー宅は焼失をまぬがれた。 9月18日 松蔭の理事会、理事、理事長、宗教教育方針が復帰。ミス・リー、理事復帰。ミス・リーは、「過去を忘れ、前に在るものを望みて進み、校長と苦楽を共にし、学校は母教会の娘の域を過ぎて姉妹であり今後チャーチスクールとして神と日本とのために尽くすよう」と挨拶した。理事会は、積極的に今後新日本建設に資するため愛と正義と平和の基盤として宗教教育を復旧強化することを決議。その方策と実施につき、理事長・ミス・リー・浅野勇校長を特別委員に任命した。 12月 ミス・リーの自宅において、日中は外国人子弟のため寺子屋式学校、午後は日本人男女のための英語教室が開設される。
1946(昭和21)	2月 ミス・リー提案の松蔭の教育方針(英語・芸術重点主義)、理事会の賛同を得る。 3月10日 イングリッシュ・ミッション・スクールの跡地に古建材で校舎を建て、聖ミカエル国際学校と名付け、戦後の関西で最初の外国人子弟のための学校を開校。ミス・リー、校長に就任。学校内に幼稚園部を作る。主任、広瀬可子。幼稚園部は2年後に聖ミカエル幼稚園に発展する。
1947(昭和22)	4月、松蔭女子専門学校設立。校長はアーサー・リー主教、ミス・リー、教授に就任。松蔭中学校設置。
1948(昭和23)	4月 松蔭高等学校設置。 9月 聖ミカエル国際学校敷地に聖ミカエル幼稚園が創立され、ミス・リー、園長に就任。

西暦(年号)	事 柄
1949(昭和24)	9月 松蔭短期大学設置認可申請書提出。ミス・リーは、帰英中、開学までには帰任する予定、英文科専任教授、担当学科目は聖書文学、英語、英文印字、採用予定、昭和26年4月として届けられている。
1950(昭和25)	3月15日 松蔭短期大学認可。 4月 松蔭女子専門学校廃止。 4月1日 松蔭短期大学開学。初代学長はアーサー・リー主教。短大校地2300坪の土地代は、リー主教がアメリカで呼びかけた「一坪募金」によって充当された。
1951(昭和26)	3月10日 アーサー・リー主教、健康上の理由で短期大学学長を辞任。ミス・リー、第2代学長となる。ミス・リー、『WINDOW ON JAPAN』を英国 SPG から出版。
1962(昭和37)	ミス・リー、松蔭短期大学学長を辞任。名誉学長となる。
1966(昭和41)	4月 松蔭女子学院大学開学。ミス・リー、専任教授に就任。 5月 短期大学名簿のミス・リー自宅住所 神戸市生田区山本通2丁目21。
1967(昭和42)	5月 短期大学名簿のミス・リー自宅住所 神戸市葺合区野崎通8丁目20。 11月3日 教育功労者として、兵庫県文化賞を受賞。(ミス・リーのような外国人にあつては「兵庫県国際文化賞」と称した)
1969(昭和44)	明治百年祭にあたり、日本政府より勲四等瑞宝章を受章。
1971(昭和46)	5月 カナダへ休暇に行く。 7月 英国の妹ヘレンのバンステッドの自宅に滞在。 9月 カナダから日本へ帰国。 10月 病気療養のためロンドンに帰る。病気は喉頭がん。 10月28日 ロンドン郊外の聖クリストファー・ホスピスにて永眠。享年75歳。 11月2日 サリー州バンステッドの諸聖徒教会で葬送式。同教会墓地に埋葬。 11月13日 神戸聖ミカエル大聖堂において「レオノラ・エデス・リー 追悼記念式」。
1972(昭和47)	10月28日 聖ミカエル大聖堂にてミス・リー追悼礼拝。聖ミカエル国際学校の校庭にクスノキを植樹。
1974(昭和49)	3月25日 『キリスト教論集第10号』(桃山学院大学発行)に八代崇翻刻「Fascinated by Japan : War-time Memoirs of Leonora Edith Lea, edited with a Biographical note」掲載。
1975(昭和50)	3月25日 『キリスト教論集第11号』(桃山学院大学発行)に八代崇翻刻「Fascinated by Japan : War-time Memoirs of Leonora Edith Lea, edited with a Biographical note」掲載。
1996(平成8)	9月16日 『洋玉蘭の薫るレディー「ミス・リーの思い出」』(「思い出のミス・リー」出版発起人編集)刊行。
2001(平成13)	10月28日 神戸聖ミカエル大聖堂において「ミス・リー逝去30年記念式」。
2008(平成20)	10月31日 『松蔭女子学院史料 第八集 「レオノラ・エディス・リー 戦中覚え書」』(松蔭女子学院発行)刊行。

西暦(年号)	事 柄
2011(平成23)	10月3日 聖ミカエル国際学校主催「ミス・リー逝去40年追悼ディナー」(於 Kobe Club)。
2016(平成28)	9月22日 『松蔭女子学院史料 第九集 「ミス・リー文書」』刊行。

### 主な参考文献

- ① 松蔭女子学院理事会記録 (1972年までの残存部分)
- ② 松蔭女子学院評議員会記録 (1965までの残存部分)
- ③ 松蔭女子専門学校設置認可申請書 1946.12.18
- ④ 松蔭短期大学設置認可申請書 1949.9
- ⑤ 松蔭女子学院大学設置認可申請書 1965.9.25
- ⑥ 松蔭高等女学校名簿 1939.5
- ⑦ 松蔭高等女学校同窓会誌『千と勢』
- ⑧ 松蔭短期大学名簿
- ⑨ 松蔭女子学院大学名簿
- ⑩ 『神戸聖ミカエル教会百年史物語』 (1981.9.27発行)
- ⑪ 『松蔭女子学院百年史』 (1992.9.17発行)
- ⑫ 『ミス・リーの想い出』 (1996.9.16発行)
- ⑬ ミス・リー逝去30年記念式「芙美子・ファーガソン講演」 2001.10.28
- ⑭ 『松蔭女子学院史料 第八集』「戦中覚え書」 (2008.10.31発行)
- ⑮ 聖ミカエル国際学校『THE BREEZE』1946-2006
- ⑯ 桃山学院大学『キリスト教論集』第10号 (1974.3.25発行)
- ⑰ 桃山学院大学『キリスト教論集』第11号 (1975.3.25発行)
- ⑱ 『兵庫県文化賞受賞者名鑑』 (兵庫県文化賞受賞者懇話会 1982.3.31発行)
- ⑲ Cheltenham Ladies' College Archivistからの調査報告 2016.7
- ⑳ 『松蔭女子学院史料 第九集』「レオノラ・エディス・リー文書」 (2016.9.22発行)

〈作成 吉村厚子 『松蔭女子学院史料 第九集』所収の年譜に加筆修正(イタリック部分)〉